

令和6年5月31日発行



五小だより

学校だより 6月号
東久留米市立第五小学校
校長 古矢 美雪

学校創立 60 周年記念
6月の「けやすけ」

つなぐ

—60年の伝統のバトン—

校長 古矢 美雪

仲間とともに未来へつなげ！ 60年の伝統のバトン

これは、子供たちが決めた運動会のスローガンです。60年間、様々な人につなげてきてもらった五小の伝統を途切れさせないように、皆で未来へバトンをつないでいきたい、という思いが込められています。

過日の運動会には、多くの保護者・地域の皆様にご来校いただき、子供たちに温かいご声援をいただきましてありがとうございました。どの学年も、「学校創立60周年の年であることを意識して、五小のよき伝統を守り、つなげていきたい」という気持ちをもちながら、例年以上に熱く、そして真剣に取り組んだ運動会でした。

それぞれの学年や係で、60周年を次のように意識しました。応援団は、赤白それぞれの旗と腰ベルトに60の数字とマスコットキャラクター「けやすけ」を入れました。1年生は、「ポポポーズ」で、体で60のポーズを2回やりました。2年生は、パラソルの最後のキメポーズで、学年全員で60の隊形を作りました。3年生は、エイサーの最初に、体で6と0を表現しました。4年生は、ダンスの前のアナウンスに、「60周年の運動会、大成功へののろしをあげる」というフレーズを入れました。5年生は、大漁旗に60の数字を入れ、最初の船を表現した場面で集合した円を6重円にし、6回の和太鼓の音で始まり、ソーランチームは6人で構成をしました。最高学年の6年生は組体操のはじめに、代表の子供が谷川俊太郎さん（五小の歌詞を作ってくださった方）の『生きる』の詩の一部を紹介して、その内容に迫る組体操を表現し創り上げました。そして最後には、全校競技として、820名の児童全員で、おめでたい紅白の「大玉おくり」を楽しみました。



大玉おくり

各学年の演技（ダンス・踊り・組体操）は、60周年に関わることを盛り込みつつ、とても一生懸命さが表れていました。しかも、演技をしている子供たちは、ただ一生懸命なだけではなく、笑顔あふれる活気に満ちていました。これが五小に代々受け継がれてきた伝統である、と感じました。全員リレーでは、まさにその**60年の伝統のバトン**を、見事につなぐ子供たちの姿がありました。卒業生の先輩方が受け継ぎつないできた素晴らしいバトン。そのバトンを今、未来へとつなごうとしている子供たちです。これからも、卒業生の先輩方に感謝の気持ちを持ち、保護者や地域の皆様方に感謝の気持ちを持ち、その気持ちをこの運動会の日のように全力で表現し**バトンをつなぐ**子供たちになるように、育んでいきます。

結びに、運動会開始前と終了後に、会場の準備・片付けを手伝ってくださったPTAボランティアの皆様、暑い日差しの中での活動、本当にありがとうございました。熱中症対策でテントを40張、張りましたが、私ども教職員のみだけでは手が足りないところを、助けていただいたこと、心から感謝申し上げます。